

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101884		
法人名	医療法人 清和会		
事業所名	グループホームかがやき2号館		
所在地	徳島市八万町橋本80番地		
自己評価作成日	平成27年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年2月5日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

傾聴・共感・笑顔をもっととし職員と共に、出来る範囲で役割を果たして頂きながら生きがいの持てる毎日、個別性のある日常生活を送って頂いている。周辺には小学校や幼稚園等がありオープンスクールに参加するなどして地域の住民としての交流を図り、楽しみのある日々を過ごして頂いている。部屋は、すべて個室となっており、プライバシーも保てるように配慮している。また、敷地内に同一法人の運営する医療法人があるため、通院・リハビリテーション、急変時等の医療支援体制が充実しており、利用者や家族の皆様にご安心を提供している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に幼稚園や小学校のある閑静な住宅街に位置している。同一敷地内に母体法人の運営する医療機関があり、24時間の対応が可能な状況を整備しており、利用者や家族の安心に繋がっている。事業所は、オープンスクールや地元のお祭り、文化祭等に積極的に参加している。また、実習生や研修生を受け入れ、相互に交流を行っている。職員は、利用者一人ひとりの尊厳や権利擁護を尊重したうえで、寄り沿う介護を実践している。ユニットごとの共有空間には、行事の写真や季節感のある作品をたくさん飾っており、家庭的で暖かい空間となっている。管理者や職員は、サービスの質の向上のため、勉強会や研修会に積極的に参加するなどして、資質の向上に努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や各ユニットの事務室・リビングに掲示し共有に努めている。利用者との日頃の関わりの中でケアの方法や理念の実践について職員間で話し合いをして統一を図るようにしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。事務所内に理念を掲示したり、毎月、全職員で理念について話し合ったりしている。新規職員の採用時には、日頃の支援を通じて理念の伝達や共有化を図っている。全職員で、理念の“傾聴・共感・笑顔”を支援の原点に捉えてケアの実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	婦人会のボランティアの受け入れ、文化祭・幼稚園・英会話教室の行事へ参加をし地域との交流を図っている。また量販店での買い物を楽しんだり、地元の祭りでは子供屋台がホームの前まで来てくれたりしている。	事業所は、地域の文化祭や幼稚園のオープンスクールに参加している。また、地域のボランティアやお祭りの子ども神輿を受け入れている。中学生の体験学習や大学生の研修生も受け入れており、積極的に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成への貢献として近くの大学生・中学校の実習生や他事業所からの研修依頼を積極的に受け入れたり、運営推進会議を通して民生委員の方ボランティアの方と話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、利用者・家族代表・民生委員・地域包括支援センター職員・施設責任者・管理者・職員が参加し、2ヶ月に1回開催されている。活動状況等を議題として意見交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、地域住民の代表者、市担当者等の出席を得ている。利用者の状況や行事等について報告を行うなどして助言や意見を得ている。出された意見は、全職員で共有し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは、定期的な書類の提出や介護認定申請代行に加えて、入居者の諸制度の活用についての相談をしたり、空き情報の問い合わせを受けたりする等、双方互いに連携している。	月1回、職員は市担当窓口を訪問し、サービスの現状を報告し、話し合うようにしている。相互の協力関係を構築することができるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束の内容やその弊害について勉強会を行いマニュアルや資料を整備することで共通の認識を持つようにしている。玄関の施錠については、入居者の安全に配慮しながら柔軟な対応をしている。	事業所では、身体拘束に関する指針やマニュアルを作成している。職員は、内部研修や法人主催のヒヤリハット会議に参加するなどして、身体拘束の弊害について理解を深める機会を得ている。施錠やベッド柵を希望する家族には、事業所の取り組みを丁寧に説明するなどして、理解を得ることができるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で勉強会やミーティング等を行い、不適切なケア・言葉による虐待がないように確認している。また、見過ごされることがないように注意を払い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でのバックアップ体制は整っているといえる。また、成年後見人制度を活用している利用者がある為、その仕組みや手続き方法等を各種書籍やインターネットを参考に学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行うため時間をいただくことを伝えた上で、手順に沿って重要事項を説明している。疑問点があれば理解が得られるよう丁寧な説明に努め、了承を得た上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、月1回の茶話会や日頃の利用者との関わりのなかで一人ひとりの希望や思いを把握するよう努めている。家族からは、面会時や運営推進会議等の機会に意向を引出し運営に反映できるよう取り組んでいる。	年3回、事業所で家族会を開催している。家族の来訪時やカンファレンス時には、希望や意向等を聞くようにしている。出された意見について職員会議の機会等に話し合っており、運営面に反映するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりコミュニケーションを図るよう心がけ職員の意見や要望を聞くようにしている。また、出された意見等は毎月法人で開催される施設会議の際に報告し協議を行ったうえで運営に反映できるよう取り組んでいる。	事業所では、職員の意識調査アンケートを実施するなどして、一人ひとりのケアに対する思いや意見、要望を聞くようにしている。出された意見は、職員会議や施設会議等の機会に検討している。職員間でも送りノートに記載し共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づき労働環境づくりに努めている。また責任者や管理者が職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し資格所得に向けて支援し資格の評価を行い能力にあった定期昇給も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修等、事業所以外で開催される研修会に、なるべく多くの職員ができるよう努めている。また、月に1回行われている法人内・ホーム内の研修に順番に参加し、研修報告書は全員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修や外部研修に積極的に参加し、他事業所の職員と顔馴染みになることで、お互いが情報交換し、サービスの質の向上に活かしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人・家族と面談を行い心身の状態や本人の思いと向き合い不安や要望の把握に努めている。意思疎通の困難な方には家族や担当ケアマネに過去の生活状況や性格等を聞き不安や要望の把握に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労やサービスの利用状況、グループホーム利用に至る迄の経緯について聞くように心掛けている。家族との信頼関係を構築し何でも話して貰えるような関係作りの構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望・状況を把握するように努めている。相談内容に応じて必要なサービスの種類(ショートステイ・入居等)説明は行っている。早急な対応が必要な方には可能な限り、柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の年齢を積み重ねた言動等に教えられる事が多く、思いを知る事に努め楽しく生活が送れるように心掛けている。職員は、常に笑顔で入居者の方と接するように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やホーム便りで日々の暮らしや出来事を伝え、情報を共有し共に支えていく関係作りを心掛けている。また、本人・家族の意向を反映したプランを作成している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人の方に協力を得て馴染みの喫茶店に行き馴染みの人達と食事を楽しんだりして人間関係や社会との関係を断ち切らないようにしている。家族・友人の面会時には気兼ねなく過ごせるよう配慮している。	事業所では、利用者が近隣の理・美容院に出かけたり、喫茶店で友人や知人とモーニングを楽しんだりすることができるよう支援している。家族の協力を得るなどして、利用者一人ひとりがこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係性の把握に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や個性を把握し、共に支え合いながら生活できるよう努めている。楽しく過ごせる時間や馴染みの関係が作れるよう職員が調整役となり孤立する事のないように職員が間に入り支援している。		

自己	外部	項目	1		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居となった利用者や家族の支えとなれるよう、お見舞いに行き話を聞いたりし、少しでも不安が和らぐよう心のケアに努めている。また、家族からの相談も随時のっている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりの思いや意向を把握し、家族からの情報も大切にしている。言葉での表現が困難な方には表情や行動、態度等から真意を推し測るようにしている。	利用者や家族から、今までの生活スタイルや生活習慣を聞いている。職員は、日頃の利用者との関わりの中で希望や意向を把握するように努めている。意思の表出が困難な方には、言動や表情の変化等から意向をくみ取るよう努め、その人らしい暮らしの実現に向けて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、入居時に家族・ケアマネなどから丁寧に聞き取りをして、サービスの利用の経過・把握に努めている。また、日々の生活場面に応じて話を聞き、情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム・行動や小さな動作から変化を感じ取り、職員全員で情報の交換を行っている。また、出来ないことより、出来ることに注目し全体像が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日常生活の中で自然に意見を聞き家族からの思いは面会時等で聞き職員の気づき等と合わせて、その人らしく生活できるよう介護計画を作成している。利用者の状態変化に応じて検討見直しを行っている。	本人や家族の思いや意向を尊重したうえでモニタリングを行い、主治医や関係者間で話し合っって介護計画を作成している。利用者の心身状況等に応じて、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や職員の気づきを個々の介護記録や申し送りノート等に、その都度記載し職員間で情報の共有をしている。記録をもとに、介護計画の見直しや評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族からの要望に、出来るだけ応えられるよう柔軟に対応している。法人内の他部署や他事業所と連携し、業務改善などにも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや民生委員、地域の婦人会のボランティア、消防署、教育機関とは協力してもらっている。英会話教室のハロウインの来訪・地域の文化祭、お祭り等にも参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関の受診は職員が支援し、他の医療機関の受診は家族と相談するなど状況に合わせて柔軟に対応している。	事業所では、利用者や家族の希望するかかりつけ医を確認し、受診を支援している。職員は、必要に応じて受診時の同行も行っており、家族との情報の共有を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携病院との連携を密にし常に利用者の健康管理や状態の変化に応じて受診の必要性の判断や助言を得ている。毎夕には連携病院の当直看護師に状態報告を行い日中、夜間の状態変化時の対応に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供している。入院中は回復状況の把握や今後の方向性について本人・家族の意向に配慮しながら連絡調整に努めている。退院時は医療機関と情報を共有しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・家族の意向に沿って十分な話し合いがとれるよう体制を整えている。体調の悪化や状況の変化に応じて主治医を交えた話し合いを行い、今後の事業所にてできる最大の支援について、本人や家族へ説明を行っている。	事業所では看取りの指針を作成している。契約時の段階で、本人や家族に終末期に関する事業所の方針を説明するなどして同意を得ている。本人の心身状況に応じて意向を再確認するなどして、かかりつけ医や関係者と相談し対応方針の共有化を図っている。本人や家族の意向に添うことができるようチームで支援するための体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。月1回の勉強会やヒヤリハットで個々の事例を検証し意見交換することで実践に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て、併設の医療機関とともに避難訓練や消化器の使用方法等の訓練を行っている。地域には、運営推進会議で協力を呼びかけている。また災害時に備え、備蓄品を用意している。	年2回、消防署や法人本部の協力を得て、避難訓練や消火訓練を行っている。災害時の備蓄品等も備えている。運営推進会議の委員等から、近隣の住民にも避難訓練等に参加してもらうことができるよう声かけを行っている。	

自己	外部	項目	1		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応には十分配慮している。利用者の主張する事を拒否せずに傾聴し受容するように心掛けている。記録も個別に管理する等の取り扱いをしており、プライバシー保護に配慮している。	事業所では、利用者一人ひとりの性格や生活習慣を把握するよう努めている。本人の自尊心を傷つけることなく、自己決定の場を増やすことができるよう支援している。事業所では、職員がプライバシーや個人情報保護に関する研修会を受講する機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めた事を押し付けるのではなく複数の選択肢を提案して利用者の自己決定を尊重している。意思表示の難しい方でも、表情を読み取ったり・嗜好や関心のある事の把握に努め、希望に沿った選択を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にしている。職員が手を出し過ぎないように心掛け見守りながら、出来ていないところをさりげなくフォローするように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みの服装をして、お化粧をする等、日頃からおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また、服を一緒に会に行くなど、おしゃれが楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みやご飯・おかずの盛り付け量、糖尿病等に配慮している。一人ひとりの能力に応じて食事の準備をして頂いている。食事前もテーブル拭きやおしぼりを巻きをして下さる利用者の方もいらっしゃる。	事業所では、利用者と職員で食事を作っている。また、栄養士に相談して旬の食材や利用者の嗜好を取り入れるなどし、献立を立てている。食事の形状を工夫したり、五感への刺激を考慮したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認と間食量を把握し、水分補給も時間毎に行っている。利用者の希望に応じて主食をお粥やパン食にしたり副食を刻み食等にする工夫をしている。また、個別に嗜好品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性をお話し、食後の歯磨きの声掛けや見守りを行っている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を傷つけない配慮を心掛けている。トイレでの排泄を大切にしながら本人の状態に合わせてポータブルトイレ・紙パンツ等を使用している。失敗した場合も周囲に気付かれないうように配慮をしながら対応している。	職員は、利用者の排泄パターンを把握したうえで、可能な限りトイレへの誘導や排泄の自立に向けた支援に努めている。介助の際にはさりげない声かけなどを行うなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動や個々に合った水分摂取への配慮・内服薬の状況を見ながら日頃の様子観察を行い、自然排便できるよう取り組んでいる。状況に応じて医師と相談しながら予防・対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が一方向的に決めず、本人の希望に合わせた入浴を支援している。入浴拒否する方には声掛けや時間・職員を変えたりして安心して入浴して頂ける様対応している。	利用者一人ひとりの希望等に応じて入浴を楽しんでもらっている。羞恥心や不安感に配慮し同性介護を実践している。入浴を拒む利用者には、声かけや気分転換を行うなどして、無理強いすることなく、本人が納得して入浴することができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の電気の明るさを、本人の希望に合わせてたり、なるべく日中の活動をう促し、生活リズムを整えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時のダブルチェックを徹底し、服薬支援を行っている。個人別に薬の説明書を整理し、職員間で情報を共有している。症状が変化した時に照合し、医療機関への報告が円滑に行えるよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵や手芸など個別の希望に添った活動を通じて意欲的に生活出来るように支援している。余暇の過ごし方が自己決定出来るよう、意向の把握と準備に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時散歩や日光浴を楽しんでもらっている。また、茶話会で入居者の行きたい場所の希望を聞き、買い物・外食・遠足に行っている。場合によっては、家族にも協力を依頼している。	日頃から、利用者と職員で近隣へ散歩に出かけている。利用者一人ひとりの希望に応じて、個別に買い物に出かけることもある。家族の協力を得るなどして、歩行困難な方も車いすを利用して外出することができるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、本人や家族と相談した上で財布を持って頂いる。また、お金を所持していない方でも職員と一緒に買い物に出かけて、本人の好みの物を買ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話や手紙のやり取りが出来るよう家族の協力を得ており、能力に応じて支援している。携帯電話を所持し、御家族と自由の連絡を取り合う方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器を洗う音・料理をしている匂い・季節感のある献立・居室には馴染みの家具を置き・リビングの飾りつけを一緒に行うことで居心地のよい区間作りに努めている。	共有空間には、利用者と職員で作成した季節の作品等を多く飾っている。リビングは広く、一人ひとりがゆっくりと落ち着いて過ごすことのできる空間となっている。利用者が居心地良く過ごすことができるよう空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファを配置し、一人で過ごしたり、気の合った人同士で話したり・トランプを楽しんだりして、入居者同士でくつろいでいただけるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、居室の入り口にのれんをつけたり、表札を設置している。また、使い慣れた日用品や家具・写真・手作りカレンダーなどを持ち込み居心地のよい居室作りを工夫している。	事業所では、利用者や家族と話し合い、馴染みの家具や写真等を持ち込んでもらっている。職員は、利用者一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう居室の環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線に不要な物を置かない様にして安全の確保に努めている。自室がわかりやすいよう目印・のれんを取り付けている。夜間は居室でポータブルトイレや安楽尿器を使用したり、必要な声掛け誘導を随時行っている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2	3	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や各ユニットの事務室・リビングに掲示し共有に努めている。利用者との日頃の関わりの中でケアの方法や理念の実践について職員間で話し合いをして統一を図るようにしている。	理念を玄関や各ユニットの事務室・リビングに掲示し共有に努めている。利用者との日頃の関わりの中でケアの方法や理念の実践について職員間で話し合いをして統一を図るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	婦人会のボランティアの受け入れ、文化祭・幼稚園・英会話教室の行事へ参加をし地域との交流を図っている。また量販店での買い物を楽しんだり、地元の祭りでは子供屋台がホームの前まで来てくれたりしている。	婦人会のボランティアの受け入れ、文化祭・幼稚園・英会話教室の行事へ参加をし地域との交流を図っている。また量販店での買い物を楽しんだり、地元の祭りでは子供屋台がホームの前まで来てくれたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成への貢献として近くの大学生・中学校の実習生や他事業所からの研修依頼を積極的に受け入れたり、運営推進会議を通して民生委員の方ボランティアの方と話し合いを行っている。	人材育成への貢献として近くの大学生・中学校の実習生や他事業所からの研修依頼を積極的に受け入れたり、運営推進会議を通して民生委員の方ボランティアの方と話し合いを行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、利用者・家族代表・民生委員・地域包括支援センター職員・施設責任者・管理者・職員が参加し、2ヶ月に1回開催されている。活動状況等を議題として意見交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる	会議は、利用者・家族代表・民生委員・地域包括支援センター職員・施設責任者・管理者・職員が参加し、2ヶ月に1回開催されている。活動状況等を議題として意見交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは、定期的な書類の提出や介護認定申請代行に加えて、入居者の諸制度の活用についての相談をしたり、空き情報の問い合わせを受けたりする等、双方互いに連携している。	市町村とは、定期的な書類の提出や介護認定申請代行に加えて、入居者の諸制度の活用についての相談をしたり、空き情報の問い合わせを受けたりする等、双方互いに連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束の内容やその弊害について勉強会を行いマニュアルや資料を整備することで共通の認識を持つようになっている。玄関の施錠については、入居者の安全に配慮しながら柔軟な対応をしている。	全職員で身体拘束の内容やその弊害について勉強会を行いマニュアルや資料を整備することで共通の認識を持つようになっている。玄関の施錠については、入居者の安全に配慮しながら柔軟な対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で勉強会やミーティング等を行い、不適切なケア・言葉による虐待がないように確認している。また、見過ごされることがないように注意を払い、虐待の防止に努めている。	職員間で勉強会やミーティング等を行い、不適切なケア・言葉による虐待がないように確認している。また、見過ごされることがないように注意を払い、虐待の防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 2	自己評価 3	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でのバックアップ体制は整っているといえる。また、成年後見人制度を活用している利用者がある為、その仕組みや手続き方法等を各種書籍やインターネットを参考に学習している。	法人内でのバックアップ体制は整っているといえる。また、成年後見人制度を活用している利用者がある為、その仕組みや手続き方法等を各種書籍やインターネットを参考に学習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明が行うため時間をいただくことを伝えた上で、手順に沿って重要事項を説明している。疑問点があれば理解が得られるよう丁寧な説明に努め、了承を得た上で契約している。	十分な説明が行うため時間をいただくことを伝えた上で、手順に沿って重要事項を説明している。疑問点があれば理解が得られるよう丁寧な説明に努め、了承を得た上で契約している。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、月1回の茶話会や日頃の利用者との関わりのなかで一人ひとりの希望や思いを把握するよう努めている。家族からは、面会時や運営推進会議等の機会に意向を引出し運営に反映できるよう取り組んでいる。	職員は、月1回の茶話会や日頃の利用者との関わりのなかで一人ひとりの希望や思いを把握するよう努めている。家族からは、面会時や運営推進会議等の機会に意向を引出し運営に反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃よりコミュニケーションを図るよう心がけ職員の意見や要望を聞くようにしている。また、出された意見等は毎月法人で開催される施設会議の際に報告し協議を行ったうえで運営に反映できるよう取り組んでいる。	日頃よりコミュニケーションを図るよう心がけ職員の意見や要望を聞くようにしている。また、出された意見等は毎月法人で開催される施設会議の際に報告し協議を行ったうえで運営に反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づき労働環境づくりに努めている。また責任者や管理者が職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し資格所得に向けて支援し資格の評価を行い能力にあった定期昇給も行っている。	就業規則に基づき労働環境づくりに努めている。また責任者や管理者が職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し資格所得に向けて支援し資格の評価を行い能力にあった定期昇給も行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修等、事業所以外で開催される研修会に、なるべく多くの職員ができるよう勤めている。また、月に1回行われている法人内・ホーム内の研修に順番に参加し、研修報告書は全員が閲覧できるようにしている。	実務者研修等、事業所以外で開催される研修会に、なるべく多くの職員ができるよう勤めている。また、月に1回行われている法人内・ホーム内の研修に順番に参加し、研修報告書は全員が閲覧できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修や外部研修に積極的に参加し、他事業所の職員と顔馴染みになることで、お互いが情報交換し、サービスの質の向上に活かしている。	法人内の研修や外部研修に積極的に参加し、他事業所の職員と顔馴染みになることで、お互いが情報交換し、サービスの質の向上に活かしている。	



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2	3	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人・家族と面談を行い心身の状態や本人の思いと向き合い不安や要望の把握に努めている。意思疎通の困難な方には家族や担当ケアマネに過去の生活状況や性格等を聞き不安や要望の把握に努めている	事前に本人・家族と面談を行い心身の状態や本人の思いと向き合い不安や要望の把握に努めている。意思疎通の困難な方には家族や担当ケアマネに過去の生活状況や性格等を聞き不安や要望の把握に努めている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労やサービスの利用状況、グループホーム利用に至る迄の経緯について聞くように心掛けている。家族との信頼関係を構築し何でも話して貰えるような関係作りの構築に努めている。	これまでの家族の苦労やサービスの利用状況、グループホーム利用に至る迄の経緯について聞くように心掛けている。家族との信頼関係を構築し何でも話して貰えるような関係作りの構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望・状況を把握するように努めている。相談内容に応じて必要なサービスの種類(ショートステイ・入居等)説明は行っている。早急な対応が必要な方には可能な限り、柔軟な対応をしている。	本人や家族の要望・状況を把握するように努めている。相談内容に応じて必要なサービスの種類(ショートステイ・入居等)説明は行っている。早急な対応が必要な方には可能な限り、柔軟な対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の年齢を積み重ねた言動等に教えられる事が多く、思いを知る事に努め楽しく生活が送れるように心掛けている。職員は、常に笑顔で入居者の方と接するように心掛けている。	職員は、入居者の年齢を積み重ねた言動等に教えられる事が多く、思いを知る事に努め楽しく生活が送れるように心掛けている。職員は、常に笑顔で入居者の方と接するように心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やホーム便りで日々の暮らしや出来事を伝え、情報を共有し共に支えていく関係作りを心掛けている。また、本人・家族の意向を反映したプランを作成している。	面会時やホーム便りで日々の暮らしや出来事を伝え、情報を共有し共に支えていく関係作りを心掛けている。また、本人・家族の意向を反映したプランを作成している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親類の協力を得て、馴染みの所に出かけている(墓参り・食事)。また馴染みのタクシー運転手さんと外出されたりとされている。	家族・知人の方に協力を得て馴染みの喫茶店に行き馴染みの人達と食事を楽しんだりして人間関係や社会との関係を断ち切らないようにしている。家族・友人の面会時には気兼ねなく過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や個性を把握し、共に支え合いながら生活できるよう努めている。楽しく過ごせる時間や馴染みの関係が作れるよう職員が調整役となり孤立する事のないように職員が間に入り支援している。	利用者同士の関係や個性を把握し、共に支え合いながら生活できるよう努めている。楽しく過ごせる時間や馴染みの関係が作れるよう職員が調整役となり孤立する事のないように職員が間に入り支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 2	自己評価 3	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退居となった利用者や家族の支えとなれるよう、お見舞いに行き話を聞いたりし、少しでも不安が和らぐよう心のケアに努めている。また、家族からの相談も随時のついている。	入院で退居となった利用者や家族の支えとなれるよう、お見舞いに行き話を聞いたりし、少しでも不安が和らぐよう心のケアに努めている。また、家族からの相談も随時のついている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりの思いや意向を把握し、家族からの情報も大切に得るようにしている。言葉での表現が困難な方には表情や行動、態度等から真意を推し測るようにしている。	日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりの思いや意向を把握し、家族からの情報も大切に得るようにしている。言葉での表現が困難な方には表情や行動、態度等から真意を推し測るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、入居時に家族・ケアマネなどから丁寧に聞き取りをして、サービスの利用の経過・把握に努めている。また、日々の生活場面に応じて話を聞き、情報を得るようにしている。	プライバシーに配慮しながら、入居時に家族・ケアマネなどから丁寧に聞き取りをして、サービスの利用の経過・把握に努めている。また、日々の生活場面に応じて話を聞き、情報を得るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズム・行動や小さな動作から変化を感じ取り、職員全員で情報の交換を行っている。また、出来ないことより、出来ることに注目し全体像が把握できるように努めている。	利用者一人ひとりの生活リズム・行動や小さな動作から変化を感じ取り、職員全員で情報の交換を行っている。また、出来ないことより、出来ることに注目し全体像が把握できるように努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には日常生活の中で自然に意見を聞き家族からの思いは面会時等で聞き職員の気づき等と合わせて、その人らしく生活できるよう介護計画を作成している。利用者の状態変化に応じて検討見直しを行っている。	本人には日常生活の中で自然に意見を聞き家族からの思いは面会時等で聞き職員の気づき等と合わせて、その人らしく生活できるよう介護計画を作成している。利用者の状態変化に応じて検討見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や職員の気づきを個々の介護記録や申し送りノート等に、その都度記載し職員間で情報の共有をしている。記録をもとに、介護計画の見直しや評価を行っている。	利用者の状態や職員の気づきを個々の介護記録や申し送りノート等に、その都度記載し職員間で情報の共有をしている。記録をもとに、介護計画の見直しや評価を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族からの要望に、出来るだけ応えられるよう柔軟に対応している。法人内の他部署や他事業所と連携し、業務改善などにも取り組んでいる。	利用者・家族からの要望に、出来るだけ応えられるよう柔軟に対応している。法人内の他部署や他事業所と連携し、業務改善などにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価 2	自己評価 3	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや民生委員、地域の婦人会のボランティア、消防署、教育機関とは協力してもらっている。英会話教室のハロウインの来訪・地域の文化祭、お祭り等にも参加させて頂いている。	地域包括支援センターや民生委員、地域の婦人会のボランティア、消防署、教育機関とは協力してもらっている。英会話教室のハロウインの来訪・地域の文化祭、お祭り等にも参加させて頂いている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関の受診は職員が支援し、他の医療機関の受診は家族と相談するなど状況に合わせて柔軟に対応している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関の受診は職員が支援し、他の医療機関の受診は家族と相談するなど状況に合わせて柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携病院との連携を密にし常に利用者の健康管理や状態の変化に応じて受診の必要性の判断や助言を得ている。毎夕には連携病院の当直看護師に状態報告を行い日中、夜間の状態変化時の対応に備えている。	連携病院との連携を密にし常に利用者の健康管理や状態の変化に応じて受診の必要性の判断や助言を得ている。毎夕には連携病院の当直看護師に状態報告を行い日中、夜間の状態変化時の対応に備えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供している。入院中は回復状況の把握や今後の方向性について本人・家族の意向に配慮しながら連絡調整に努めている。退院時は医療機関と情報を共有しながら速やかな退院支援に結び付けている。	入院時は医療機関に介護サマリーなどの支援方法を提供している。入院中は回復状況の把握や今後の方向性について本人・家族の意向に配慮しながら連絡調整に努めている。退院時は医療機関と情報を共有しながら速やかな退院支援に結び付けている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・家族の意向に沿って十分な話し合いがとれるよう体制を整えている。体調の悪化や状況の変化に応じて主治医を交えた話し合いを行い、今後の事業所にてできる最大の支援について、本人や家族へ説明を行っている。	利用者・家族の意向に沿って十分な話し合いがとれるよう体制を整えている。体調の悪化や状況の変化に応じて主治医を交えた話し合いを行い、今後の事業所にてできる最大の支援について、本人や家族へ説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。月1回の勉強会やヒヤリハットで個々の事例を検証し意見交換することで実践に繋げている。	緊急時マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。月1回の勉強会やヒヤリハットで個々の事例を検証し意見交換することで実践に繋げている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て、併設の医療機関とともに避難訓練や消化器の使用方法等の訓練を行っている。地域には、運営推進会議で協力を呼びかけている。また災害時に備え、備蓄品を用意している。	年2回、消防署の協力を得て、併設の医療機関とともに避難訓練や消化器の使用方法等の訓練を行っている。地域には、運営推進会議で協力を呼びかけている。また災害時に備え、備蓄品を用意している。	



自己	外部	項目	自己評価 2	自己評価 3	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別に話す時間を持ち、本人の話をゆっくり傾聴し受容するように心掛けている。声掛けのタイミングに気を付けプライバシーを損ねないようにしている。	言葉掛けや対応には十分配慮している。利用者の主張する事を拒否せずに傾聴し受容するように心掛けている。記録も個別に管理する等の取り扱いをしており、プライバシー保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表現できる雰囲気作りに努め、気持ちの変わりやすい方にはその都度確認し、自己決定を尊重している。	決めた事を押し付けるのではなく複数の選択肢を提案して利用者の自己決定を尊重している。意思表示の難しい方でも、表情を読み取ったり・嗜好や関心のある事の把握に努め、希望に沿った選択を支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、ひとり一人その日の体調や気持ちを尊重し希望に添った対応を心掛けている。	利用者一人ひとりのペースを大切にしている。職員が手を出し過ぎないように心掛け見守りながら、出来ていないところをさりげなくフォローするように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	快適に暮らす事が出来るように、季節や体調に応じた身だしなみやおしゃれの支援をしている。	自分好みの服装をして、お化粧をする等、日頃からおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また、服を一緒に会に行くなど、おしゃれが楽しめるように支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の病状に合わせた調理方法・盛り付けに配慮し、ゆっくりと食べて頂ける環境作りに心掛けている。	利用者の好みやご飯・おかずの盛り付け量、糖尿病等に配慮している。一人ひとりの能力に応じて食事の準備をして頂いている。食事前もテーブル拭きやおしぼりを巻きをして下さる利用者の方もいらっしゃる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を把握し、間食・水分補給の声掛けをしている。また個別に嗜好品・栄養補助食品を提供している。	食事量の確認と間食量を把握し、水分補給も時間毎に行っている。利用者の希望に応じて主食をお粥やパン食にしたり副食を刻み食等にする工夫をしている。また、個別に嗜好品を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の洗浄や歯磨き等、食後や就寝前の口腔内の衛生に努め、その方に応じて職員が見守ったり介助をしている。また、協力歯科医療機関に相談や治療をお願いしている。	口腔ケアの重要性をお話し、食後の歯磨きの声掛けや見守りを行っている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 2	自己評価 3	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要方には、トイレ誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄を支援している。	自尊心を傷つけない配慮を心掛けている。トイレでの排泄を大切にしながら本人の状態に合わせてポータブルトイレ・紙パンツ等を使用している。失敗した場合も周囲に気付かれないよう配慮をしながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動(体操等)や個人に合った飲み物等を工夫し、自然排便出来るよう取り組んでいる。排便困難な方には、随時医師に相談している。	毎日の運動や個々に合った水分摂取への配慮・内服薬の状況を見ながら日頃の様子観察を行い、自然排便できるよう取り組んでいる。状況に応じて医師と相談しながら予防・対応に努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が一方的に決めず、本人の希望に合わせた入浴を支援している。また、機械浴導入しており立位の不安定な方でも安心して入浴して頂いている。	職員が一方的に決めず、本人の希望に合わせた入浴を支援している。入浴拒否する方には声掛けや時間・職員を変えたりして安心して入浴して頂ける様対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を支援し、生活のリズムを整えるよう取り組んでいる。状況に応じて休息を取って頂いている。	夜間の電気の明るさを、本人の希望に合わせてたり、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、個別にファイルし薬の説明書を整理している。職員が内容を把握しダブルチェック後、手渡し本人確認の上、服薬をして頂いている。	服薬時のダブルチェックを徹底し、服薬支援を行っている。個人別に薬の説明書を整理し、職員間で情報を共有している。症状が変化した時に照合し、医療機関への報告が円滑に行えるよう取り組んでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分に出来る事・やりたい事等を、自分でしたいと思える雰囲気作りを心掛けている。	貼り絵や手芸など個別の希望に添った活動を通じて意欲的に生活出来るように支援している。余暇の過ごし方が自己決定出来るよう、意向の把握と準備に努めている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	茶話会で入居者の行きたい所やしたい事など希望を聞き、買い物・散歩・遠足などに行っている。場合によっては、家族にも協力を依頼している。	随時散歩や日光浴を楽しんでもらっている。また、茶話会で入居者の行きたい場所の希望を聞き、買い物・外食・遠足に行っている。場合によっては、家族にも協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価 2	自己評価 3	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない方も職員と一緒に掛け、買い物で好きな物を買う楽しみを持ち満足感を持って頂けるように支援をしている。	自己管理が可能な方には、本人や家族と相談した上で財布を持って頂いる。また、お金を所持していない方でも職員と一緒に買い物に出かけて、本人の好みの物を買ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に電話をかけたり、家族の協力を得て家族の方からも掛けて頂いている。	希望に沿って電話や手紙のやり取りが出来るよう家族の協力を得ており、能力に応じて支援している。携帯電話を所持し、御家族と自由の連絡を取り合う方もいらっしゃる。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器を洗う音・料理をしている匂い・季節感のある献立・居室には馴染みの家具を置き・リビングの飾りつけを一緒に行うことで居心地のよい区間作りに努めている。	食器を洗う音・料理をしている匂い・季節感のある献立・居室には馴染みの家具を置き・リビングの飾りつけを一緒に行うことで居心地のよい区間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに椅子やソファを配置し、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士で話したり、くつろげるスペースを確保している。	リビングに椅子やソファを配置し、一人で過ごしたり、気の合った人同士で話したり・トランプを楽しんだりして、入居者同士でくつろいでいただけるスペースを設けている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を置いたり、写真を飾ったりして、それぞれが居心地よく生活できるように工夫している。	本人や家族と相談し、居室の入り口にのれんをつけたり、表札を設置している。また、使い慣れた日用品や家具・写真・手作りカレンダーなどを持ち込み居心地のよい居室作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ひとり一人の状態を把握し、状態に合わせた環境整備をしている。夜間は居室でポータブルトイレを使用出来るようにしたり、声掛け・コール対応にてトイレ誘導をしている。	動線に不要な物を置かない様にして安全の確保に努めている。自室がわかりやすいよう目印・のれんを取り付けている。夜間は居室でポータブルトイレや安楽尿器を使用したり、必要な声掛け誘導を随時行っている。	